

令和7年度教育課程進度計画表

 新課程 /  旧課程

 関西医療学園専門学校
理学療法学科

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖生理学 [到達目標] 人体の構造と機能の学習の根幹を成す科目であり、各器官の形態や構造とその部位及びその働きについて学習する。人体を構成する組織、器官の構造と機能を把握し、その機能異常としての病気の理解へと繋がられることを目標とする。	 1年 講義6単位(180時間) 必修 実習1単位(30時間) 必修 1. 解剖生理学の領域 2. 細胞膜 3. 細胞質 4. 核 5. 細胞周期と細胞分裂 6. 遺伝子とゲノム 7. クロマチン 8. 染色体 9. DNAの構造① 10. " ② 11. 組織の構成①(上皮組織) 12. " ②(腺) 13. " ③(結合組織) 14. 骨①(構造) 15. " ②(構成要素①) 16. " ③(" ②) 17. " ④(再構築) 18. " ⑤(骨髄) 19. " ⑥(発生) 20. " ⑦(成長) 21. " ⑧(骨折) 22. " ⑨(関節) 23. " ⑩(骨格①) 24. " ⑪(" ②) 25. 筋①(骨格筋①) 26. " ②(" ②) 27. " ③(" ③) 28. " ④(平滑筋) 29. " ⑤(心筋) 30. 体液 31. 血液① 32. " ② 33. 止血 34. 血液型 35. 免疫機構にかかわる器官① 36. " ② 37. 防御反応① 38. " ② 39. 心臓① 40. " ② 41. 心筋の興奮① 42. " ② 43. 心臓のポンプ作用 44. 血管の構造とはたらき① 45. " ② 46. " ③ 47. 循環の調節 48. リンパ系 49. 呼吸器系の構造① 50. " ② 51. 呼吸のしくみ①

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖生理学	52. 呼吸のしくみ② 53. 栄養 54. エネルギー代謝 55. 体温① 56. " ② 57. 消化器①(構造) 58. " ②(口腔と咽頭) 59. " ③(食道・胃) 60. " ④(小腸) 61. " ⑤(大腸) 62. " ⑥(肝臓) 63. " ⑦(脾臓) 64. " ⑧(栄養素の消化と吸収 ①) 65. " ⑨(" ②) 66. 神経細胞① 67. " ② 68. シナプス 69. 神経細胞の電氣的興奮 70. シナプスにおける興奮 71. 神経膠細胞 72. 中枢神経① 73. " ② 74. " ③ 75. 末梢神経 76. 自律神経 77. 視覚系① 78. " ② 79. 聴覚系① 80. " ② 81. 平衡感覚系 82. 化学感覚系 83. 皮膚① 84. " ② 85. ホルモン ① 86. " ② 87. 視床下部と下垂体のホルモン① 88. " ② 89. 甲状腺ホルモン① 90. " ② 91. カルシウム代謝に関与するホルモン① 92. " ② 93. 副腎ホルモン① 94. " ② 95. 膵臓のホルモン① 96. " ② 97. その他のホルモン 98. 腎臓①(構造) 99. " ②(はたらき) 100. 排尿 101. 生殖器(分化と発達・男性生殖器・女性生殖器) 102. 生理学実習① 103. " ② 104. 解剖見学実習① 105. " ② 指定教科書「標準理学療法学・作業療法学解剖学」(医学書院) 「標準理学療法学・作業療法学生理学」(医学書院) 「日本人体解剖学上巻」(南山堂) 「生体のしくみ標準テキスト第3版 新しい解剖生理」(医学映像教育センター) 成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	基礎運動学	1年 講義2単位(60時間 必修) 実習1単位(30時間 必修) [到達目標] 骨、筋をはじめとする運動器の基本構造やその役割及び作用について学習し、ヒトの正常な運動についての理解を深める。健常者の各種正常動作のメカニズムについて説明することができ、正常な状態からの逸脱動作としての異常動作への理解に繋がられることを目標とする。 1. 運動学概論①(運動・身体運動の面と軸) 2. " ②(関節運動の表し方) 3. 運動器の構造と機能 ①(肩甲帯) 4. " ②(上腕の骨) 5. " ③(前腕の骨) 6. " ④(手の骨) 7. " ⑤(骨盤帯の骨) 8. " ⑥(大腿の骨) 9. " ⑦(下腿の骨) 10. " ⑧(足の骨) 11. " ⑨(体幹の骨) 12. " ⑩(胸郭の骨) 13. 関節の構造と機能 14. 筋の構造と機能 ①(筋の微細構造) 15. " ②(筋収縮機序) 16. " ③(運動単位と筋張力) 17. " ④(筋収縮の様態・筋肥大と筋萎縮) 18. 四肢の筋と運動 ①(肩甲帯の筋と靱帯) 19. " ②(肩甲帯の運動) 20. " ③(肩関節の筋と靱帯) 21. " ④(肩関節複合体の運動) 22. " ⑤(肘関節の筋と靱帯) 23. " ⑥(肘関節と前腕の運動) 24. " ⑦(手関節・手の筋と靱帯) 25. " ⑧(手関節と手の運動) 26. " ⑨(手の変形) 27. " ⑩(股関節の筋と靱帯) 28. " ⑪(股関節の運動) 29. " ⑫(膝関節の筋と靱帯) 30. " ⑬(膝関節の運動) 31. " ⑭(足関節・足の筋と靱帯) 32. " ⑮(足関節・足の運動) 33. " ⑯(足の変形) 34. 体幹の筋と運動 ①(頭頸部の筋と靱帯) 35. " ②(頭頸部の運動) 36. " ③(脊柱の筋と靱帯) 37. " ④(体幹の運動) 38. " ⑤(胸郭の筋と靱帯) 39. " ⑥(胸郭の運動) 40. " ⑦(呼吸の種類と筋活動) 41. " ⑧(腰部・腹部の筋と靱帯) 42. " ⑨(腰部・腹部の運動) 43. 姿勢(重心・安定性・姿勢の保持機構) 44. 歩行・運動学実習 45. 身体運動のバイオメカニクス・運動学実習 指定教科書 「基礎運動学」(医歯薬出版) 「日本人体解剖学上巻」(南山堂) 「骨格筋の形と触察法」(大峰閣) 基礎運動学 Work book 電子版 成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	臨床心理学 [到達目標] 臨床心理学の必要性和その歴史、基本理論と方法論、人格理解の基本原則と方法、心理療法の基本原則と技法ならびに心理臨床の実際について学習する。これらを通して、理学療法士が対象とするヒトの心理や自己理解を深め、心理学的に適切な対応が取れるようになることを目標とする。	 1年 講義1単位(30時間 必修) 1. 臨床心理学概論 2. 心理検査総論 3. 質問紙法検査 4. MMPI・YG性格検査・CMI 5. 不安検査(MAS・STAI)・うつ検査(SDS・BDI) 6. 投影法検査①(ロールシャッハ検査・TAT) 7. " ②(PF-ステディ・SCT・ソンディテスト) 8. 描画による投影法検査 (人物テスト・ハウムテスト・HTP・家族画法・風景構成法) 9. 作業検査法・知能検査 (ビネー式知能検査・ウェクスラー式知能検査・K-ABC・ITPA) 10. 乳幼児精神発達検査 11. 高齢者向け検査・精神心理学的検査 12. 心理療法①(認知行動療法・家族療法) 13. " ②(力動的療法・交流分析) 14. " ③(ゲシュタルト療法・来談者中心療法・フォーカシング) 15. " ④(ナラティブセラピー・短期療法・集団療法・心理劇・催眠・マインドフルネス) 指定教科書 資料デジタル配信 成績評価 後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	人間発達学	 1年 講義1単位(30時間 必修) 実習1単位(30時間 必修) 1. 人間発達学の概要 2. 小児の成長・発育と発達 3. 胎生期 4. 姿勢反射と姿勢反応 ① (新生児期にみられる姿勢反射・姿勢反応①) 5. " ②(" ②) 6. " ③(" ③) 7. " ④(" ④) 8. " ⑤ (新生児期以降にみられる姿勢反射・姿勢反応①) 9. " ⑥(" ②) 10. " ⑦(" ③) 11. " ⑧(" ④) 12. 姿勢・運動の発達 ①(腹臥位の発達①) 13. " ②(" ②) 14. " ③(背臥位の発達①) 15. " ④(" ②) 16. " ⑤(座位の発達①) 17. " ⑥(" ②) 18. " ⑦(立位・歩行の発達) 19. " ⑧(ヘッドコントロールの発達) 20. 上肢機能の発達 21. 遊びの発達① 22. " ② 23. 言語の発達① 24. " ② 25. 発達検査法① 26. " ② 27. 保育所実習① 28. " ② 29. " ③ 30. " ④ 指定教科書 「シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト」(南江堂) 人間発達学 Work book 電子版 成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病 理 学 [到達目標] 病因と病態、遺伝子異常と発生発達異常、細胞傷害、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍について学ぶ。また、がんの定義、病期分類、病理診断についても学習する。これらにより、理学療法士として必要な病理学的知識の理解を目標とする。	1年 講義2単位(60時間 必修) 1. イントロダクション(はじめに 病因) 2. 細胞傷害・再生① 3. " ② 4. 炎症① 5. " ② 6. 免疫① 7. " ② 8. 症例からみた疾患① 9. 感染症① 10. " ② 11. 循環障害① 12. " ② 13. " ③(各疾患) 14. 先天異常 15. 腎・泌尿器 16. 症例からみた疾患② 17. 腫瘍① 18. " ② 19. " ③(各疾患) 20. 生活習慣病・代謝① 21. " ② 22. " ③(各疾患) 23. 症例からみた疾患③ 24. 運動器①(骨・関節) 25. " ②(筋肉) 26. 造血器 27. 呼吸器 28. 内分泌器、生殖器 29. 神経、感覚 30. 症例からみた疾患④ 指定教科書 「はじめの一步の病理学」(羊土社) 資料デジタル配信 成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授 業 項 目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	臨床医学総論 [到達目標] 地域包括ケアシステムの構築が進められるなかで、理学療法士の業務は医療提供施設から在宅まで及び、他職種連携により共通する医学的な知識や技術が求められている。 本講義では、理学療法士として必須である疾病に関する知識、薬理の基礎やフィジカルアセスメントの方法を習得することを目標とする。	 1年 講義2単位(60時間 必修) 1. イントロダクション(身近な症状) 2. 痛み①(腹痛) 3. " ②(胸痛) 4. " ③(頭痛) 5. " ④(関節痛、筋肉痛) 6. 咳、クシャミ、痰 7. 悪心、嘔吐、下痢 8. 尿の異常 9. 症例からみる症状① 10. 貧血 11. 浮腫、脱水 12. 出血 13. めまい 14. 黄疸 15. 発熱 16. 肝腫、脾腫、リンパ節腫脹 17. ショック 18. 体重増加・減少 19. 運動麻痺・感覚障害 20. 症例からみる症状② 21. 意識障害 22. 血圧低下 23. 脈拍異常、不整脈 24. 呼吸困難 25. 排尿障害 26. 薬理の基礎 ①理学療法士が知って役立つ薬 27. " ②消炎鎮痛剤とステロイド剤 28. " ③筋弛緩剤 29. " ④強心剤と降圧剤 30. " ⑤抗パーキンソン病薬、睡眠薬 指定教科書 「一目でわかる病態生理」 (メディカル・サイエンス・インターナショナル) 「リハベータック薬理学・臨床薬理学」 (医歯薬出版) 資料デジタル配信 成績評価 前期レポート

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	画像医学 [到達目標] 画像情報から障害の原因となっている部位の初期状態、治療結果、治療効果などの客観的かつ視覚的情報を得ることで、障害との関連付けを行い、治療に反映させるため、医師による読影及び画像診断のプロセスを理解することを目的とする。	 1年 講義1単位(30時間 必修) 1. 総論 2. 画像診断の基本 3. 脳画像① 4. " ② 5. " ③ 6. 脊椎・脊髄画像① 7. " ② 8. 骨・関節画像① 9. " ② 10. 胸部画像① 11. " ② 12. " ③ 13. " ④ 14. 摂食嚥下① 15. " ② 指定教科書 「リハビリテーション医療に活かす画像のみかた」(南江堂) <u>成績評価</u> 後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	スポーツ栄養論・予防管理論 [到達目標] 身体活動量が多い人に対する栄養学的知識及び栄養障害による身体機能への影響を考える。健常者・高齢者・障がい者の栄養評価に基づき推論を行い、栄養と予防管理について学ぶことを目標とする。 ☆実務経験教員担当科目 理学療法士が勤務していた(病院・診療所)先における患者の症例及びこれに対する理学療法について、スライドを用いて臨的に教授する。	 1年 講義1単位(30時間) 必修 1. 同化作用と異化作用 2. 5大栄養素の基本 3. 低栄養 4. 評価と身体計測 5. 過栄養 6. エネルギー代謝 7. メタボリックシンドローム 8. 各種評価スケール 9. 症例検討 10. 症例検討 11. 予防理学療法の定義 12. 予防理学療法の領域 13. 理学療法分野における管理 14. 組織・業務管理 15. 教育システムと経営管理 指定教科書 「PT・OT・STのためのリハビリテーション栄養」(医歯薬出版) 予防管理論 Work book 電子版 成績評価 後期試験(栄養論) 後期レポート(予防管理論)

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	内科学 [到達目標] 循環器、呼吸器、神経、内分泌・代謝、消化器、血液、感染、免疫・アレルギー・膠原病など内科学全般について学ぶとともに、X線・CT・MRI画像の診断のポイントについても学び、理学療法士として必要な内科学的知識の理解を目標とする。	 1年 講義2単位(60時間 必修) 1. 内科学の概要 2. 診断・治療 ① 3. " ② 4. 症候学① 5. " ② 6. " ③ 7. 循環器疾患 ① 8. " ② 9. 呼吸器疾患 ① 10. " ② 11. 消化管疾患① 12. " ② 13. 肝胆膵疾患① 14. " ② 15. 血液・造血器疾患① 16. " ② 17. 代謝性疾患① 18. " ② 19. 内分泌疾患① 20. " ② 21. 腎・泌尿器疾患① 22. " ② 23. 膠原病・アレルギー疾患① 24. " ② 25. 感染症疾患① 26. " ② 27. 中毒① 28. " ② 29. 皮膚疾患① 30. " ② 指定教科書 「標準理学療法学・作業療法学内科学」(医学書院) <u>成績評価</u> 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	整形外科学 [到達目標] 運動器リハビリテーションに関連する骨、靱帯、筋肉・腱の軟部組織について、画像診断を中心とする診断方法と治療方法を学び、上肢、脊柱、下肢の部位別の整形外科的治療を理解することを目標とする。	 1年 講義2単位(60時間 必修) 1. 運動器、骨・関節の役割と構造 2. 骨折、骨折の分類、骨折の治癒過程 3. 骨折の癒合期間、骨折治療の基本原則 4. 骨折の外科的治療 5. 骨折の合併症 6. 運動器の画像評価、単純X線、MRI 7. 高齢者の骨折①(橈骨遠位端骨折①) 8. " ②(" ②) 9. " ③(上腕骨近位部骨折) 10. " ④(大腿骨近位部骨折①) 11. " ⑤(" ②) 12. " ⑥(胸腰椎圧迫骨折) 13. 腰痛①(非特異的腰痛、分離すべり症) 14. " ②(椎間板ヘルニア) 15. " ③(脊柱管狭窄症、側弯症、炎症性疾患) 16. 小児の骨折①(上腕骨顆上骨折) 17. " ②(上腕骨外・内顆骨折、ガレアッヅ) 18. その他の骨折①(鎖骨、上腕骨骨幹部、膝蓋骨) 19. " ②(脛骨近位端、下腿、果部) 20. " ③(距骨、踵骨) 21. 変形性股関節症・THA 22. 変形性膝関節症・TKA 23. 関節リウマチ 24. 膝部・足部の靱帯損傷(半月板を含む) 25. よくある整形外科疾患①(野球肘、テニス肘) 26. " ②(肩関節周囲炎、腱板) 27. " ③(肉離れ、アキレス腱断裂) 28. 末梢神経系の疾患①(絞扼神経障害) 29. " ②(胸郭出口症候群) 30. 学童期・成長期の疾患(ヘルペス、くる病など) 指定教科書 「標準整形外科学」(医学書院) 「病気がみえるvol.11 運動器・整形外科」(メディックメディア) 整形外科学 Work book 電子版 成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授 業 項 目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	小児科学 [到達目標] 小児の成長と発達、栄養、小児保健での小児の特徴を学ぶ。また各臓器の形態的・機能的特徴、症状、診断、治療について学習し、理学療法士として必要な小児科的知識の習得を目標とする。	 1年 講義1単位(30時間) 必修 1. 小児科概論 2. 小児保健 3. 診断と治療の概要 4. 新生児・未熟児 5. 先天異常と遺伝病 6. 神経・筋疾患 7. 骨・関節疾患 8. 循環器疾患 9. 呼吸器疾患 10. 感染症 11. 血液疾患・内分泌疾患・代謝疾患 12. 免疫・アレルギー疾患 13. 消化器疾患・腎疾患・泌尿器系疾患 14. その他の疾患 15. 重症心身障害児 指定教科書 「標準理学療法学・作業療法学 小児科学」(医学書院) 小児科学 Work book 電子版 成績評価 後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	脳神経内科学 [到達目標] 神経系の疾患を対象として、疾患の疫学、病理、診断、治療、予防を領域とする医学の領域を学び、リハビリテーション医療における基礎的知識を習得することを目標とする。	⑤2年 講義2単位(60時間 必修) 1. 神経内科学総論 2. 神経・筋疾患とリハビリテーション 3. 神経解剖学 4. 神経生理学 5. 神経薬理学 6. 分子遺伝学① 7. " ② 8. 神経系の発達と加齢 9. 神経診断学 ①(各機能の診かた①) 10. " ②(" ②) 11. " ③(検査法①) 12. " ④(" ②) 13. 神経疾患各論①(脳血管障害①) 14. " ②(" ②) 15. " ③(変性疾患①) 16. " ④(" ②) 17. " ⑤(脱髄疾患) 18. " ⑥(末梢神経障害①) 19. " ⑦(" ②) 20. " ⑧(筋疾患) 21. " ⑨(神経筋接合部疾患) 22. " ⑩(腫瘍) 23. " ⑪(脊髄疾患) 24. " ⑫(感染性疾患) 25. " ⑬(先天異常・脳性麻痺) 26. " ⑭(代謝・中毒性疾患) 27. " ⑮(外傷) 28. " ⑯(自律神経疾患) 29. " ⑰(機能性疾患) 30. " ⑱(認知症) 指定教科書 「標準理学療法学・作業療法学 神経内科学」(医学書院) 成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	精神医学 [到達目標] 身体機能面に介入する理学療法士であるが、精神医学的な観点での知識が必須となってきた。本講義では、人間の精神機能、疾患の特徴、薬物療法などの理解をし、理学療法士として、どのように対応していくべきかを考えていくことを目標とする。	⑤2年 講義1単位(30時間 必修) 1. 統合失調症①(概念・病因・症状) 2. " ②(分類・経過・予後・治療) 3. 精神作用物質による精神行動障害 4. うつ病・双極性障害①(抑うつエピソード 躁病エピソード) 5. " ②(治療, 妄想有病率, 予後) 6. 不安, 強迫, PTSDの症状・経過・治療 7. 摂食障害(神経性無食欲症と神経性大食症の 症状・経過・予後・治療) 8. 依存・物質使用障害(精神依存と身体依存, 薬物, アルコール, ニコチン) 9. パーソナリティー障害(類型, 特徴, 治療) 10. 睡眠障害(不眠, 過眠, ナルコレプシー 概日リズム障害, 無呼吸症候群) 11. 認知症 類型と症状 (Alzheimer型認知症・脳血管性認知症・ Levy小体型認知症・前頭側頭型認知症・ Creutzfeldt-Jakob病・治療可能な認知症) 12. てんかん 症状と薬物療法 13. 身体症状症 類型と特徴 14. 発達障害(自閉スペクトラム症・AD/HD・ 限局性学習症) 15. 精神・心理検査と総括 指定教科書 「メディカルスタッフ専門基礎科目 シリーズ 精神医学」(理工図書) 成績評価 後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学 [到達目標] リハビリテーション医学の理念及び歴史、ならびにリハビリテーションの対象となる疾患についての医学的知識及び診断とその治療の方法を学び、代表的疾患のリハビリテーションの概略を理解することを目標とする。	 1年 講義1単位(30時間 必修) 1. リハビリテーションの定義と歴史 2. 障害論 3. 評価・検査・治療 4. 疾病と外傷 ①(脳・脳卒中) 5. " ②(脊髄・脊髄損傷) 6. " ③(関節・関節リウマチ) 7. " ④(小児疾患) 8. " ⑤(神経筋) 9. " ⑥(末梢神経) 10. " ⑦(外傷) 11. " ⑧(脊椎) 12. " ⑨(内部疾患) 13. " ⑩(切断) 14. " ⑪(高齢者) 15. " ⑫(その他の疾患) 指定教科書 「標準整形外科学」(医学書院) 「病気がみえるvol.11 運動器・整形外科」(メディックメディア) リハビリテーション医学 Work book 電子版 成績評価 後期レポート

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション総論 [到達目標] リハビリテーションの概念及び歴史的変遷、ノーマライゼーション・IL運動(自立生活運動)の流れを理解したうえで、WHOの国際分類、障害受容、リハビリテーション(医学的・社会的・教育的・職業的)について学ぶ。またチーム医療における各職種の役割と連携、高齢者のサルコペニアやフレイルの問題を通じて理学療法士の役割を理解することを目標とする。 ☆実務経験教員担当科目 理学療法士が勤務していた(病院・診療所)先における患者の症例及びこれに対する理学療法について、スライドを用いて臨床的に教授する。	1年 講義1単位(30時間 必修) 1. 総論①(リハビリテーションの概念と歴史的変遷理念) 2. " ②(ノーマライゼーションとIL運動) 3. 健康と障害 ①(ICDと予防医学) 4. " ②(ICIDH) 5. " ③(ICF) 6. 廃用症候群 7. 誤用症候群と過用症候群 8. 障害受容 9. リハビリテーションの過程 10. リハビリテーションの諸相 11. 医療とリハビリテーション 12. リハビリテーション専門職種・チームアプローチ 13. ADL・QOLの概念と評価 14. 地域リハビリテーションと社会資源 15. リハビリテーション施設見学 指定教科書 「リハビリテーション概論」(永井書店) リハビリテーション総論 Work book 電子版 成績評価 前期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	★リハビリテーション各論(疾患別リハビリテーション) [到達目標] 理学療法士の職域を理解し、疾患別(神経障害系・運動器障害系・内部障害系・難病・脳性麻痺)リハビリテーションの特徴について学ぶことを目標とする。 ☆実務経験教員担当科目 理学療法士が勤務していた(病院・診療所)先における患者の症例及びこれに対する理学療法について、スライドを用いて臨的に教授する。	 1年 講義1単位(30時間 必修) 1. 理学療法士の職域 2. 多職種連携に関する理解 3. 疾患別リハ ①(脳血管片麻痺) 4. " ②(パーキンソン病) 5. " ③(筋萎縮側索硬化症(ALS)) 6. " ④(脊髄損傷) 7. " ⑤(関節リウマチ) 8. " ⑥(大腿骨頸部骨折) 9. " ⑦(心疾患) 10. " ⑧(呼吸器疾患) 11. " ⑨(人工透析) 12. " ⑩(小児) 13. " ⑪(癌) 14. 症例検討① 15. " ② 指定教科書 「シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト」(南江堂) リハビリテーション各論(疾患別リハビリテーション)Work book   成績評価 後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション各論 [到達目標] 各疾患別の理学療法に基づいて臨床的な思考を育てる。症例検討では、画像、生化学検査、診断のための各種検査の結果を示し、症例患者のICFとADL能力を整理しながら、理学療法の展開について学ぶことを目標とする。	⑤2年 講義1単位(30時間 必修) 1. ICFとADL 2. 廃用症候群 3. 症例検討 4. 脳卒中 5. 症例検討 6. パーキンソン病 7. 症例検討 8. がん 9. 症例検討 10. 誤嚥性肺炎 11. 症例検討 12. 大腿骨近位部骨折 13. 症例検討 14. 慢性心不全 15. 症例検討 指定教科書 リハビリテーション各論 Work book 電子版 成績評価 後期レポート

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	基礎理学療法学	理学療法学総論 [到達目標] 理学療法の定義や関係法規など基本的内容のうえに、理学療法士の役割、臨床思考、実際の理学療法の流れ、活躍している現場、教育・管理について学習療法、理学療法士について理解することを目標とする。 ☆実務経験教員担当科目 理学療法士が勤務していた(病院・診療所)先における患者の症例及びこれに対する理学療法について、スライドを用いて臨床的に教授する。	 1年 講義1単位(30時間 必修) 1. 理学療法とは、 2. 理学療法の対象(廃用症候群の説明) 3. 理学療法の目的(基本動作とは) 4. 理学療法の手段①(体操、その他の運動) 5. " ②(運動の範囲、方法) 6. " ③(筋収縮の種類) 7. " ④(運動形態による分類) 8. 筋力増強運動の頻度と種類 9. 運動療法で用いる器具①(関節可動域の器具) 10. " ②(基本動作の器具) 11. " ③(バランスの器具) 12. " ④(筋力増強の器具) 13. 物理療法の種類 14. 随意運動について考える 15. 上位運動・下位運動ニューロン障害の理解 指定教科書 理学療法学総論Work book電子版 成績評価 前期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	基礎理学療法学	運動療法学総論	 1年 講義1単位(30時間 必修) 1. 定義と概念①(歴史・目的・種類) 2. " ②(対象疾患・器械器具) 3. " ③(特殊な運動療法・体操) 4. 運動を引き起こす力による分類 5. 運動の筋収縮様式による分類 6. 関節可動域障害に対する運動療法 ① 7. " ② 8. " ③ 9. " ④ 10. 筋力低下に対する運動療法 ① 11. " ② 12. " ③ 13. " ④ 14. 筋持久力に対する運動療法 ① 15. " ② 指定教科書「シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト」(南江堂) 運動療法学総論 Work book   成績評価 後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	基礎理学療法学	日常生活活動学 [到達目標] 日常生活に行われている基本的・応用的動作などのADL概念を学び、評価法、動作分析法について理解するとともに、障害やその重症度に応じた動作方法の指導、福祉用具の選定、住環境整備等についての知識の習得を目標とする。 ☆実務経験教員担当科目 理学療法士が勤務していた(病院・診療所)先における患者の症例及びこれに対する理学療法について、スライドを用いて臨床的に教授する。	 1年 講義1単位(30時間 必修) - ADL概念と範囲 - ADLと障害・ADLとQOL - 基本動作①(姿勢保持・寝返り動作) 〃 ②(起居動作) 〃 ③(移乗動作・移動動作) - 歩行補助具①(杖・松葉杖) 〃 ②(応用動作) - 車椅子 - 身の周り動作①(食事・整容・更衣) 〃 ②(トイレ・入浴) - ADL支援機器・自助具 - ADL評価①(Barthel index) 〃 ②(機能的自立度評価法) - 疾患別ADL指導①(脳血管疾患) 〃 ②(神経・運動器疾患) 指定教科書 「シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト」(南江堂) 日常生活活動学Work book 電子版 成績評価 前期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	基礎理学療法学	動作分析学	⑤2年 講義1単位(30時間 必修) 1. 正常歩行の空間的・時間的パラメータ 2. 正常歩行の下肢関節運動と機能① 3. " ② 4. 正常歩行の筋活動とトルク①(股関節筋) 5. " ②(膝関節筋) 6. " ③(足関節筋) 7. 逸脱歩行の理解①(股関節伸展制限の歩行) 8. " ②(足関節背屈制限の歩行) 9. " ③(膝伸展の筋力低下の歩行) 10. 正常立ち上がり動作の理解 11. 正常立ち上がり動作の関節運動 12. 逸脱立ち上がり動作の理解①(膝伸展筋の低下) 13. " ②(股関節屈曲制限) 14. 逸脱歩行の理解④(足背屈・底屈の筋力低下) 15. 起き上がり動作の理解 指定教科書 「動作のメカニズムがよくわかる 実践！動作分析」(医歯薬出版) 動作分析学 Work book 電子版 成績評価 前期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	基礎理学療法学	運動療法学各論	⑤2年 講義1単位(30時間) 必修 実習1単位(30時間) 必修 [到達目標] 運動プログラムの立案においては、運動効果を高め、かつ疾患特性を考慮したリスク管理が必要となる。そこで、健常者の運動中の生理的反応および呼吸循環代謝に障害のある内部障害系の各疾患の特性とリスク管理について学び、適切な運動負荷設定や運動処方が行えることを目標とする。 1. 運動時の呼吸代謝反応 2. 運動時のエネルギー代謝 3. 運動時の栄養 4. 呼気ガス分析 5. 酸素化能 6. 酸塩基平衡① 7. " ② 8. " ③ 9. バイタル測定① 10. " ② 11. 運動負荷試験①(総論) 12. " ②(バイタルチェック) 13. " ③(METs) 14. " ④(6分間歩行) 15. 運動処方①(健常者の反応①) 16. " ②(" ②) 17. " ③(呼吸器疾患 病態①) 18. " ④(" ②) 19. " ⑤(心疾患 病態生理①) 20. " ⑥(" ②) 21. " ⑦(心疾患 検査所見) 22. " ⑧(心疾患 運動負荷) 23. " ⑨(糖尿病 病態生理) 24. " ⑩(糖尿病 検査所見) 25. " ⑪(糖尿病 運動負荷) 26. " ⑫(腎不全 病態生理) 27. " ⑬(腎不全 検査所見) 28. " ⑭(腎不全 運動負荷) 29. 症例検討① 30. " ② 指定教科書「標準理学療法学 内部障害理学療法学」(医学書院) 運動療法学各論 Work book 電子版 成績評価 後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 管理理学	理学療法教育管理 [到達目標] リハビリテーションチームの一員である理学療法士には、高い臨床能力に加え、管理能力が必要である。 これを養うため、診療・介護報酬制度、リスク管理及び危機管理ならびに病院管理等を学ぶことにより、マネジメントスキルを養うことを目標とする。	⑤2年 講義1単位(30時間 必修) 1. 医療保険① 2. " ② 3. 介護保険 4. 診療報酬① 5. " ② 6. リスクマネジメント 7. 病院管理 8. 理学療法教育 9. 労務管理 10. コミュニケーション 11. 身分法と職能団体 12. 職業倫理 13. キャリアラダー 14. 自己研鑽とスキルアップ 15. 感染予防 指定教科書 理学療法教育管理Work book 電子版 成績評価 前期レポート

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 管理理学	理学療法教育管理	⑤3年 講義1単位(30時間 必修) 1. 診療報酬点数表の読解① 2. " ② 3. " ③ 4. " ④ 5. " ⑤ 6. 介護報酬単位表の読解① 7. " ② 8. 医療福祉経営① 9. " ② 10. " ③ 11. " ④ 12. 病院管理① 13. " ② 14. 医療におけるリスクマネジメントと危機管理① 15. " ② 指定教科書「保健行政法学第14版」 (関西医療学園専門学校) 成績評価 後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法評価学	評価学総論 [到達目標] 患者の障害像を理解するため、日常生活活動を評価するポイント、器官別の病態、全身に影響する臓器関連について学習し、理学療法評価を行う際に、臓器不全が全身へ与える影響を理解し、説明できることを目標とする。	 1年 講義1単位(30時間 必修) 1. 理学療法評価プロセスの概要 2. 情報収集に関する用語の説明①(個人情報) 3. " ②(医学的情報) 4. " ③(社会的情報) 5. 情報収集・医学的全身状態の把握①(心疾患) 6. " ②(肺疾患) 7. " ③(腎疾患) 8. 姿勢の安定性(静的・動的バランス) 9. ADLの構成要素と機能①(食事と整容) 10. " ②(更衣、トイレ、入浴) 11. 医療面接・生活状況の把握①(実用性の評価) 12. " ②(入院前の生活) 13. 姿勢保持・動作障害の要素的条件を理解 (改善すべき基本動作の選定) 14. 改善すべき基本動作の選定の具体例① 15. " ② 指定教科書 「動作のメカニズムがよくわかる 実践！動作分析」(医歯薬出版) 「統合と解釈がよくわかる実践！ 理学療法評価学」(医歯薬出版) 成績評価 後期レポート

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 評価学	評価学各論	⑤2年 講義3単位(90時間 必修) 1. 立位保持障害の記録①(BOS内に重心を静止) 2. 静的立位安定性の評価 3. 立位保持障害の記録②(BOS内の重心移動) 4. 動的立位安定性の評価 5. THA模擬症例(独歩の症例 動作観察) 6. " (記録演習) 7. " (動作解釈) 8. " (活動制限と機能障害の関連性の説明) 9. TKA模擬症例(立ち上がり動作の観察) 10. " (階段昇降の観察) 11. " (記録演習) 12. " (動作解釈) 13. " (活動制限と機能障害の関連性の説明) 14. THA模擬症例(平行棒歩行 動作観察) 15. " (記録演習) 16. " (動作解釈) 17. " (活動制限と機能障害の関連性の説明) 18. リウマチ模擬症例(階段・立ち上がり観察) 19. " (記録演習) 20. " (動作解釈) 21. " (活動制限と機能障害の関連性の説明) 22. 脳血管障害模擬症例(急性期被殻出血) 23. " (pusher陽性 記録演習) 24. " (動作解釈) 25. " (活動制限と機能障害の関連性の説明) 26. 失調症模擬症例(立が上がり・歩行観察) 27. " (記録演習) 28. " (動作解釈) 29. " (活動制限と機能障害の関連性の説明) 30. レジューメの作成手順の説明① 31. " ② 32. " ③ 33. 症例レジューメの解説演習①(整形疾患①) 34. " ②(" ②) 35. " ③(中枢疾患①) 36. " ④(" ②) 37. " ⑤(内部疾患①) 38. " ⑥(" ②) 39. " ⑦(神経疾患①) 40. " ⑧(" ②) 41. 問題点の抽出(ICFフレームワークの構築化演習) 42. 目標設定に関わる考察 43. 治療プログラムの立案①(プログラム順序) 44. " ②(運動学習) 45. 理学療法再評価 指定教科書 「統合と解釈がよくわかる実践！ 理学療法評価学」(医歯薬出版) 「WEB動画も活用してスッキリ整理！理学 療法のプロセスと臨床推論」(金芳堂) 成績評価 後期レポート

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 評価学	検査測定学	⑤2年 講義1単位(30時間 必修) 1. 反射検査概論 2. 深部腱反射①(腱反射のメカニズム) 3. " ②(検査手技) 4. " ③(判定方法) 5. " ④(疾患に応じた検査方法) 6. 表在反射 7. 病的反射 8. 感覚検査概論 9. 感覚に関する解剖生理 10. 感覚検査方法論 11. 表在感覚検査①(疾患に応じた検査方法①) 12. " ②(" ②) 13. " ③(" ③) 14. 深部感覚検査①(位置覚・運動覚) 15. " ②(振動覚・複合感覚) 指定教科書「ベッドサイドの神経の診かた」(南山堂) 「PT・OT入門 イラストでわかる 評価学」(医歯薬出版) 成績評価 前期レポート

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 評価学	評価学実習	⑤2年 実習2単位(60時間 必修) 1. 形態測定①(概論) 2. " ②(身長・体重・体格指数) 3. 四肢長測定(上肢・下肢) 4. 周径測定①(上肢・下肢) 5. " ②(体幹・胸郭拡張差) 6. 関節可動域(総論) 7. 関節可動域検査①(概論) 8. " ②(肩甲帯・肩) 9. " ③(肘・前腕) 10. " ④(手・母指・指) 11. " ⑤(股) 12. " ⑥(膝・足) 13. " ⑦(足部・母趾・足趾) 14. " ⑧(頸部・胸腰部) 15. 検査データと動作の関連性 16. 徒手筋力検査(総論) 17. 肩関節 18. 肘関節・前腕 19. 手関節(屈曲・伸展)・手指・手部 20. 手指 21. 肩甲帯 22. 股関節 23. 膝関節 24. 足関節 25. 足部 26. 頭部・頸部 27. 体幹 28. 骨盤 29. 安静吸気運動・強制呼気運動 30. 検査データと動作の関連性 指定教科書「PT・OT入門 イラストでわかる 評価学」(医歯薬出版) 「新・徒手筋力検査法」(協同医書出版) 評価学実習 Work book 電子版 成績評価 前期レポート

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	骨関節疾患理学療法学	⑤2年 講義4単位(120時間 必修) 実習1単位(30時間 必修) [到達目標] 整形外科講義の理解のうえに、理学療法を実施するリスク要因、クリティカルパスの理解及び機能改善に対応した理学療法プログラムを学習する。運動器障害における評価、基本的な運動療法手技と物理療法手技を安全に実践することができることを目標とする。 ☆実務経験教員担当科目 理学療法士が勤務先(病院・デイサービスセンター)における患者(利用者)の症例及びこれに対する理学療法について、スライドを用いて臨床的に教授する。 - 鎖骨骨折①(受傷機転・分類) " ②(整形外科的治療) " ③(理学療法の原則) " ④(理学療法の注意点) - 上腕骨近位端骨折①(受傷機転・分類) " ②(整形外科的治療) " ③(理学療法の原則) " ④(理学療法の注意点) - 上腕骨骨幹部骨折①(整形外科的治療) " ②(理学療法の原則と注意点) - 腱板損傷①(腱板の機能) " ②(理学療法の原則と注意点) - 五十肩(肩関節の整形外科的検査) - 肩関節脱臼傷①(受傷機転、IGHLの損傷) " ②(理学療法の原則と注意点) - 胸郭出口症候群損傷①(絞扼する部位と検査) " ②(理学療法の原則と注意点) - 肘頭骨折 - 頸椎症性頸椎症、神経根症①(病態と症状) " ②(理学療法の原則と注意点) - 頸椎症性頸髄症①(病態と症状) " ②(理学療法の原則と注意点) - 関節リウマチ①(診断基準・評価) " ②(ADL障害) " ③(理学療法の原則と注意点) - 足部果部骨折①(病態と症状) " ②(理学療法の原則と注意点) - 距骨骨折①(病態と症状) " ②(理学療法の原則と注意点) - アキレス腱断裂①(受傷、整形外科的治療) " ②(理学療法の原則) " ③(理学療法の注意点) - 踵骨骨折①(受傷機転と症状) " ②(理学療法の原則) " ③(理学療法の注意点) - 変形性股関節症①(整形外科的所見・検査) " ②(症状とADL障害) " ③(理学療法評価) " ④(保存療法PTプログラム) " ⑤(手術療法PTプログラム) - 変形性膝関節症①(整形外科的所見・検査) " ②(症状とADL障害) " ③(理学療法評価) " ④(保存療法PTプログラム) " ⑤(手術療法PTプログラム) - 骨折の分類、合併症、治療 - 骨盤骨折①腸骨骨折(剥離骨折を含む) " ②坐骨骨折、恥骨骨折 - 大腿骨近位部骨折①(受傷機転と分類) " ②(術式と手術侵襲、脱臼部位) " ③(下肢骨折の合併症と予防) " ④(人工骨頭置換術のPT)

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	骨関節疾患理学療法学	53. 大腿骨近位部骨折⑤(観血的骨接合術のPT) 54. " ⑥(ADL指導) 55. 胸腰椎圧迫骨折の理学療法 56. 骨折脱臼の運動療法①(上腕骨骨幹部骨折) 57. " ②(上腕骨顆上骨折) 58. " ③(橈骨遠位端骨折) 59. " ④(前腕骨骨折) 60. " ⑤(脛骨近位端骨折) 61. " ⑥(大腿骨骨幹部骨折) 62. " ⑦(膝蓋骨脱臼) 63. 疾患別理学療法①(変形性膝関節症) 64. " ②(オスグットシュラッター病) 65. " ③(膝蓋腱炎・鰐足炎) 66. " ④(腸脛靭帯炎) 67. " ⑤(離断性骨軟骨炎) 68. " ⑥(肘部管症候群) 69. " ⑦(手根管症候群) 70. 軟部組織損傷①(TFCC損傷) 71. " ②(膝靭帯・半月板損傷) 72. 末梢神経損傷①(橈骨神経麻痺) 73. " ②(正中神経麻痺) 74. " ③(尺骨神経麻痺) 75. 末梢循環障害(フォルクマン拘縮) 指定教科書「標準整形外科学」(医学書院) 「運動器疾患の治療とリハビリテーション」 (メジカルビュー) 「病気がみえるvol.11 運動器・整形外科」(メディックメディア) 骨関節疾患理学療法学 Work book 電子版 成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	脳血管障害理学療法学	⑤2年 講義3単位(90時間) 必修 実習1単位(30時間) 必修 [到達目標] 理学療法士としての脳血管障害についての理解、脳血管障害後遺症に対する科学的視点に基づいた臨床推論から理学療法を実施することができる能力を養うことを目標とする。 1. 脳血管障害評価概論 2. 脳血管障害の障害 3. 一次的障害と二次的障害 4. 脳血管障害の病態 5. 運動障害① 6. " ② 7. " ③ 8. " ④ 9. " ⑤ 10. 感覚障害 11. 高次脳機能障害① 12. " ② 13. " ③ 14. " ④ 15. " ⑤ 16. " ⑥ 17. " ⑦ 18. " ⑧ 19. " ⑨ 20. " ⑩ 21. " ⑪ 22. " ⑫ 23. " ⑬ 24. 意識障害① 25. " ② 26. 認知症① 27. " ② 28. 合併症① 29. " ② 30. " ③ 31. " ④ 32. " ⑤ 33. 予後予測① 34. " ② 35. " ③ 36. " ④ 37. 画像① 38. " ② 39. 理学療法評価① 40. " ② 41. 理学療法評価の実際① 42. " ② 43. " ③ 44. " ④ 45. " ⑤ 46. " ⑥ 47. " ⑦ 48. " ⑧ 49. " ⑨ 50. " ⑩ 51. " ⑪ 52. " ⑫ 53. 非麻痺側機能検査 54. 装具① 55. " ②

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	脳血管障害理学療法学	56. 嚥下障害 57. ADLトレーニング 58. 急性期の理学療法 59. 回復期の理学療法 60. 維持期の理学療法 指定教科書 「リハビリテーション医療に活かす 画像のみかた」(南江堂) 「PT・OT入門イラストでわかる評価学」 (医歯薬出版) 「標準理学療法学 神経理学療法学」 (医学書院) 「脳血管障害理学療法学」電子版 (関西医療学園専門学校) 成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	神経筋疾患理学療法学	⑤2年 講義1単位(30時間 必修) 実習1単位(30時間 必修) [到達目標] 神経筋疾患を対象に各疾患の病態の知識と症状を把握し、重症度やADLの知識を高め、各疾患に特化した重症度分類を理解し、病期を意識した理学療法評価と運動療法を行うことができる能力を養うことを目標とする。 1. 神経筋疾患概論 2. パーキンソン病①(疾患概要) 3. " ②(病態) 4. " ③(疾患由来の症状) 5. " ④(評価、運動療法) 6. 脊髄小脳変性症①(疾患概要) 7. " ②(病態) 8. " ③(疾患由来の症状) 9. " ④(評価、運動療法) 10. 筋萎縮性側索硬化症①(疾患概要) 11. " ②(病態) 12. " ③(疾患由来の症状) 13. " ④(評価、運動療法) 14. 多発性硬化症①(疾患概要) 15. " ②(病態) 16. " ③(疾患由来の症状) 17. " ④(評価、運動療法) 18. ギランバレー症候群①(疾患概要) 19. " ②(病態) 20. " ③(疾患由来の症状) 21. " ④(評価、運動療法) 22. 多発性筋炎①(疾患概要、病態、症状) 23. " ②(評価、運動療法) 24. 重症筋無力症①(疾患概要、病態、症状) 25. " ②(評価、運動療法) 26. シャルコーマリートゥース病①(疾患概要、病態と症状) 27. " ②(評価、運動療法) 28. ポストポリオ症候群①(疾患概要、病態と症状) 29. " ②(評価、運動療法) 30. 神経難病の環境設定と在宅ケア 指定教科書「ベッドサイドの神経の診かた」(南山堂) 「標準理学療法学 神経理学療法学」(医学書院) 「リハビリテーション医療に活かす画像のみかた」(南江堂) 成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授 業 項 目
専門分野	理学療法 治療学	小児疾患理学療法学	⑤2年 講義1単位(30時間 必修) 実習1単位(30時間 必修) [到達目標] 脳性麻痺など肢体不自由児を主な対象としていた小児理学療法の領域は、早期産児の理学療法や発達障害領域の理学療法など多様化しており、これに対応できる小児領域の各疾患の特性と障害の基本的理解、理学療法評価や理学療法実施までの過程を理解することを目指す。 ☆実務経験教員担当科目 理学療法士が勤務先(小児施設)における患者の症例及びこれに対する理学療法について、スライドを用いて臨床的に教授する。 1. 小児疾患概論(発達障害の運動療法) 2. 脳性麻痺①(総論・定義・分類) 3. " ②(痙直型両麻痺①) 4. " ③(" ②) 5. " ④(" ③) 6. " ⑤(痙直型片麻痺①) 7. " ⑥(" ②) 8. " ⑦(" ③) 9. " ⑧(痙直型四肢麻痺①) 10. " ⑨(" ②) 11. " ⑩(アトーゼ型①) 12. " ⑪(" ②) 13. " ⑫(失調型) 14. 脳性麻痺児の評価スケール 15. 脳性麻痺児に対する問診① 16. " ② 17. 筋ジストロフィー症① 18. " ② 19. " ③ 20. ダウン症候群① 21. " ② 22. " ③ 23. 二分脊椎症① 24. " ② 25. " ③ 26. 重症心身障害児① 27. " ② 28. " ③ 29. 精神発達遅滞児① 30. " ② 指定教科書「シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト」(南江堂) 成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	脊髄損傷理学療法学 [到達目標] 脊髄損傷の病態を理解し、損傷高位別の臨床像と理学療法評価及び運動療法について学び、特徴的な随伴症状と合併症などのリスク管理、ADL自立と社会復帰に向けた補装具の知識を養うことを目標とする。 ☆実務経験教員担当科目 理学療法士が勤務先(リハビリテーション病院)における患者の症例及びこれに対する理学療法について、スライドを用いて臨床的に教授する。	⑤2年 講義1単位(30時間 必修) 1. 脊髄損傷の病態や障害像 (脊髄損傷リハの疫学と歴史 病態理解のための解剖学の整理) 2. 自律神経障害の機序と対応 (長期臥床や頸髄損傷で頻発する症状を理解するための説明, 廃用症候群など) 3. 脊髄損傷の類型 4. 脊髄損傷患者の理学療法評価 (機能評価, 能力評価についての説明 Frenkel, 改良Frenkel分類 Zancilli分類, ISMG, SCIM) 5. 脊髄損傷患者の予後予測 6. 脊髄損傷患者の急性期理学療法① (クリティカルパスを用いて座位耐性訓練時のアセスメント) 7. " ② (車椅子シーティング調整 ギャッジアップ手順) 8. " ③ (リハビリ進行中の合併症とその対応 起立性低血圧, 褥瘡, 痙縮など) 9. 脊髄損傷患者の回復期理学療法① (拘縮の好発部位と可動域訓練) 10. " ② (プッシュアップ, トランスファー指導) 11. 脊髄損傷患者の肺理学療法 12. 脊髄損傷患者の排尿・尿路障害についての対応 13. 頸髄(C4～C6)損傷患者の到達ADL 14. 頸髄(C7～Th1)損傷患者の到達ADL 15. 脊髄損傷患者のスポーツ復帰や自動車運転 指定教科書「脊髄損傷に対するPT・OTアプローチ 臨床経過モデルに基づく介入」 (メジカルビュー) 資料デジタル配信 成績評価 後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	老年理学療法学	⑤2年 講義1単位(30時間 必修) 1. 高齢社会と理学療法 2. 高齢者の特性①(老年症候群) 3. " ②(フレイル、サルコペニア) 4. 加齢に伴う変化①(呼吸器系、循環器系) 5. " ②(感覚器系、筋骨格系) 6. " ③(精神心理、認知機能) 7. 高齢者の機能評価①(高齢者総合機能評価:CGA) 8. " ②(身体機能、生活活動能力) 9. " ③(認知機能、精神心理機能QOL) 10. 認知症の種類と症状、アプローチ 11. 高齢者に対する理学療法①(目的、接遇) 12. " ②(運動療法) 13. " ③(転倒予防) 14. 介護保険領域での理学療法士の役割 15. 症例検討 指定教科書 「Crosslink理学療法学テキスト 高齢者理学療法学」(メジカルビュー) 老年理学療法学 Work book 電子版 成績評価 後期試験

分野	教育内容	授業科目	授 業 項 目
専門分野	理学療法 治療学	内部障害理学療法学	⑤2年 講義1単位(30時間 必修) 実習1単位(30時間 必修) [到達目標] 呼吸不全、循環器疾患、代謝障害など各病態の特徴を理解し、心電図・心エコーモニターの診かた、人工呼吸器・人工透析の仕組みについての知識を深め、フィジカルアセスメントに必要な聴診・血圧測定技術を習得する。また、臨床における疾患別の理学療法評価のポイント、運動療法の留意点、治療プログラムの進め方を理解することを目標とする。 1. 内部障害の定義と種類 2. 呼吸器系の解剖 3. 呼吸器系の生理 4. 換気障害の区分と医学的検査 5. 呼吸器疾患の画像の診かた 6. 血液ガス分析と酸塩基平衡 7. 呼吸不全① 8. " ② 9. 呼吸のフィジカルアセスメント① 10. " ② 11. 呼吸理学療法① 12. " ② 13. 喀痰等の吸引 14. 人工呼吸器 15. 循環器系の解剖 16. 循環器系の生理 17. 心電図の診かた① 18. " ② 19. 虚血性心疾患 20. 心不全 21. 心エコーの診かた 22. 心臓リハビリテーション① 23. " ② 24. 循環器のフィジカルアセスメント① 25. " ② 26. 糖尿病の理学療法評価 27. 糖尿病の運動療法 28. 腎不全の理学療法評価 29. 腎不全の運動療法 30. がんリハビリテーション 指定教科書「標準理学療法学 内部障害理学療法学」(医学書院) 「リハビリテーション医療に活かす画像のみかた」(南江堂) 内部障害理学療法学Work book 電子版 成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授 業 項 目
専門分野	理学療法 治療学	義肢装具学	⑤2年 講義1単位(30時間) 必修 実習1単位(30時間) 必修 [到達目標] 各部位での切断に対応する義肢の種類と利点、四肢及び体幹の形態が残存している場合に用いる装具の種類と利点を学習することにより、機能構造障害に適応する義肢・装具の選定ができることを目標とする。 ☆実務経験教員担当科目 義肢装具士が開設する義肢装具製作所における義肢・装具の製作及び適合判定等についてスライドを用いて講義を行うとともに、装具加工の実習により臨床的に教授する。 1. 歩行と義肢装具のバイオメカニクス 2. 切断 3. 義肢 4. 下腿義足 5. 大腿義足 6. 股義足 7. 膝義足 8. サイム義足 9. 足部部分義足 10. 義手 11. 切断者のリハビリテーション 12. 装具 13. 下肢装具①(片麻痺) 14. " ②(対麻痺) 15. 膝装具(スポーツ障害) 16. 小児装具①(股関節装具) 17. " ②(二分脊椎) 18. " ③(筋萎縮症) 19. 整形外科的治療装具 20. 靴型装具・足装具 21. 頸椎装具 22. 側彎装具 23. 腰背痛の装具 24. 脳性麻痺の装具 25. リウマチの装具 26. 末梢神経損傷の装具 27. 術前・術後の装具 28. 頸髄損傷の上肢装具 29. 義肢装具の材料学 30. 義肢装具の制度 指定教科書「義肢装具学」(医学書院) 義肢装具学 Work book 電子版 成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	理学療法 治療学	物理療法学	⑤2年 講義1単位(30時間) 必修 実習1単位(30時間) 必修 [到達目標] 物理療法についての定義・目的・対象・歴史・実施するうえで必要な知識を学び、各種療法の生理学的機序や適応、禁忌について理解すること、また実技実習による各種治療の実施を通して、物理療法について理解することを目指す。 1. 物理療法学総論 2. 物理療法におけるリスク管理 3. 温熱療法総論 4. 温熱療法各論 5. 温熱療法実技 6. 寒冷療法総論 7. 寒冷療法各論 8. 寒冷療法実技 9. 電磁波療法総論 10. 電磁波療法各論①(超短波療法) 11. " ②(極超短波療法) 12. 電磁波療法実技 13. 光線療法総論 14. 光線療法各論 15. 光線療法実技 16. 超音波療法総論 17. 超音波療法実技 18. 電気療法総論 19. 電気療法各論①(経皮的電気神経刺激療法) 20. " ②(機能的電気刺激療法) 21. " ③(治療的電気刺激療法) 22. 電気療法実技 23. 水治療法総論 24. 水治療法各論 25. 水治療法実技 26. 牽引療法総論 27. 牽引療法各論 28. 牽引療法実技 29. マッサージ療法総論 30. マッサージ療法実技 指定教科書「物理療法学」(金原出版) 物理療法学 Work book 電子版 成績評価 前期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	地域理学療法学	地域理学療法学総論 [到達目標] 地域医療の成り立ち及び施設間、職員間の連携の重要性を理解し、地域での暮らしを支えるために必要な基礎知識について学習する。これにより、地域医療を支える制度的環境や社会資源等のシステムを正しく理解し、そのなかにおいて活動する理学療法士の役割を理解することを目標とする。 ☆実務経験教員担当科目 理学療法士が勤務する病院・介護老人保健施設における患者（入所者）の症例及びこれに対する理学療法について、スライドを用いて臨牀的に教授する。	⑤2年 講義2単位(60時間 必修) 1. 地域理学療法の背景 2. 地域理学療法の返還 3. 地域リハビリテーション 4. 地域包括ケアシステム 5. 地域理学療法の展開①(対象者の捉え方) 6. " ②(介護認定とケアマネジメント①) 7. " ③(" ②) 8. " ④(入所サービス①) 9. " ⑤(" ②) 10. " ⑥(通所サービス①) 11. " ⑦(" ②) 12. " ⑧(訪問サービス①) 13. " ⑨(" ②) 14. " ⑩(介護予防①) 15. " ⑪(" ②) 16. " ⑫(集団対応) 17. " ⑬(地域連携①) 18. " ⑭(" ②) 19. " ⑮(他職種との連携) 20. " ⑯(施設の取組み①) 21. " ⑰(" ②) 22. 生活環境の整備①(住宅改修) 23. " ②(福祉用具) 24. " ③(シーティング) 25. 社会保障制度①(年金保険) 26. " ②(医療保険①) 27. " ③(" ②) 28. " ④(労働保険) 29. " ⑤(介護保険①) 30. " ⑥(" ②) 指定教科書「標準理学療法学 地域理学療法学」 (医学書院) 資料デジタル配信 「医療福祉と社会の理解 改訂16版」 電子版(関西医療学園専門学校) 成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授 業 項 目
専門分野	地域理学療法学	地域理学療法学各論 [到達目標] 地域包括ケアシステムの構築が進められるなかで、病病・病診・病介連携など医療と福祉の連携及び他職種の協働を理解し、介護を含む医療提供施設における対象疾患に対するアプローチ、在宅医療における訪問・通所リハビリテーション等について学習し、2年次の地域理学療法総論の知識のうえに、地域理学療法に関する応用的能力を養うことを目標とする。 ☆実務経験教員担当科目 理学療法士が各々所属する医療機関における、患者の症例及びこれに対する理学療法、ケアマネジメント等について、スライドを用いて臨牀的に教授している。	⑤3年 講義1単位(30時間 必修) 1. 地域理学療法①(脳血管疾患) 2. " ②(運動器疾患) 3. " ③(呼吸器疾患) 4. " ④(神経筋疾患) 5. " ⑤(脊髄損傷) 6. " ⑥(循環器疾患) 7. " ⑦(人工透析) 8. " ⑧(がん患者) 9. " ⑨(認知症) 10. " ⑩(摂食・嚥下障害) 11. " ⑪(移乗介助) 12. " ⑫(地域看護) 13. " ⑬(作業療法) 14. " ⑭(言語聴覚療法) 15. " ⑮(小児) 指定教科書 資料デジタル配信 成績評価 後期レポート

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	臨床実習	見学実習 [到達目標] 患者様の生活状況を把握する際のコミュニケーションスキルを習得する。患者様が抱える問題点(活動制限)や生活像を総合的に把握することができることを目標とする。また指導者の理学療法の評価・実践を見学し、患者様の動作障害の特徴を捉えるようになる。	⑤2年 実習1単位(40時間 必修) 校外実習施設(病院・診療所・介護老人保健施設)で医療面接の実施および理学療法を見学する実習 (5～11月の期間内で、7日間) 成績評価 実習評価(前期・後期)

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	臨床実習	評価実習 [到達目標] 評価学実習は、校内で指導した検査・測定 of 知識、技術を患者様に実践できることを習得する。 3年次の総合臨床実習に備えて、臨床現場で医療面接や医学的情報を経験し、患者様の個人因子および環境因子も含めた情報収集を整理し、患者様が抱える問題点や生活像を総合的に把握することを目標とする。	⑤2年 実習3単位(120時間 必修) 校外実習施設(病院・診療所・介護老人保健施設)で検査測定を実施する評価実習。 2年次の後期(2月～3月)に約3週間の予定で実施する。 評価実習は、校内で指導した検査・測定 of 知識、技術を臨床応用する機会であるだけでなく、医学的情報を踏まえた上で医療面接によって患者様の個人因子および環境因子も含めた情報収集を行い、患者様が抱える問題点や生活像を総合的に把握する。 実習後評価では、継続的に経験した患者様に対して、実習指導者もしくはチーム医療で理学療法における臨床思考を、実習生が会得しているかを症例検討会資料を用いて説明する。 実習前評価試験及び実習後評価セミナー (2～3月／14日間) 成績評価 実習評価 (実習前評価試験・校外施設・実習後評価試験)

分野	教育内容	授業科目	授業項目
専門分野	臨床実習	総合臨床実習	⑤3年 実習16単位(640時間 必修) 校外実習施設(病院・診療所・介護老人保健施設・通所リハビリテーション施設等)における総合治療実習 各実習時期の到達目標は次のとおりとします。 I 期(4～5月／6週間) チーム医療として参加し主要な患者様に対して、情報収集、医療面接から患者様の医学的全身状態の把握、理学療法対象疾患についての病態と障害像を把握することができる。 II 期(6～7月／6週間) チーム医療として参加し主要な患者様に対して、活動制限に関わる姿勢保持や基本動作を遂行する要素的条件についての類例をあげ、動作障害の原因と検査結果を照合し、統合と解釈における活動制限と機能障害の関連性を考察する。 III 期(8～10月／6週間) チーム医療として参加し主要な患者様に対して、治療プログラムの立案に至る臨床推論を説明できる。また治療的介入において最低限の治療が模倣レベルで可能となる。 各期実習後には、実習後評価にて継続的に経験した患者様に対して、実習指導者もしくはチーム医療で理学療法における臨床思考を、実習生が会得しているかを症例検討会資料を用いて説明する。 成績評価 実習評価(3期総合) (校外実習施設・実習後評価試験)

分野	教育内容	授業科目	授業項目
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	★人間関係の理解 [到達目標] 心理学的人間理解に 基く人間関係の築き方、 他者との関わり方、コミュ ニケーションの取り方につ いての理解を深め、日常 の対人関係への活用を学 習する。また、心理学に 基づいた人間関係に関す る理論及び知見の習得を 目標とする。	 1年 講義3単位(45時間 必修) 1. なぜ旧来の関係はうまくいかなかったのか？ 2. 正の注目・負の注目 3. 適切な行動・不適切な行動 4. 不適切な行動を修正する4原則 5. 人間関係において負の注目を得ようとする場合 6. 批判は勇気をくじく 7. 罰の望ましくない効果 8. 相手の話を聞くためのテクニック 9. 褒めることの弊害 10. 共感と勇気づけ 11. 失敗した時こそ勇気づけを 12. 課題の分離 13. 共同の課題 14. 相手を傷つけないで意見を伝える 15. 感情的になってしまったら 16. 体験を通じて学ぶチャンスを提供する 17. 相手からの依頼を断らなければならないとき 18. 社会的結末 19. ルールと約束 20. 不合理なルールも守るべきなのか？ 21. 平等とは？ 22. 尊敬と信頼 23. 社会性・協調性 指定教科書 資料デジタル配信 <u>成績評価</u> 前期レポート

分野	教育内容	授業科目	授業項目
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	★医療福祉と社会の理解 [到達目標] 医事及び保健衛生、社会福祉の各制度のしくみを通して、医療従事者として必要な保健医療福祉に関する制度的な理解を深める。	 1年 講義4単位(60時間 必修) 1. 社会福祉概論① 2. " ② 3. 公的扶助① 4. " ②(生活保護) 5. 児童福祉① 6. " ②(障害児) 7. 母子寡婦父子福祉・母子保健 8. 障害者福祉① 9. " ②(身体障害者①) 10. " ③(" ②) 11. " ④(知的障害者) 12. " ⑤(精神障害者) 13. " ⑥(雇用の促進) 14. " ⑦(障害者の総合支援①) 15. " ⑧(" ②) 16. 老人福祉① 17. " ②(高齢者医療) 18. " ③(高齢者介護) 19. 法の基礎(日本国憲法含む) 20. 衛生行政①(衛生行政の沿革) 21. " ②(地域保健・健康増進) 22. 医療を行う人①(理学療法士・作業療法士①) 23. " ②(" ②) 24. " ③(" ③) 25. " ④(医業・歯科医業関係①) 26. " ⑤(" ②) 27. " ⑥(医業類似行為・業務・栄養・心理) 28. 医療を行う場所① 29. " ② 30. " ③ 指定教科書 「医療福祉と社会の理解 改訂16版」 電子版(関西医療学園専門学校) 成績評価 前・後期試験

分野	教育内容	授業科目	授業項目
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解	★健康と健康障害の理解 [到達目標] 健康寿命の延伸など健康問題が多様化しているなかで、理学療法士として対象者の健康に関する問題点を明らかにし、予防的視点や健康増進のための方向性について考える力を習得することを目標とする。	 1年 講義4単位(60時間) 必修 1. 概論と定義 2. 筋収縮とエネルギー供給系 3. 筋線維の種類と収縮様式 4. 中枢神経系の機能 5. 末梢神経系の機能 6. 運動における循環器系 7. 運動における呼吸器系 8. 運動におけるホルモンの役割 9. 運動と栄養 10. 老化に伴う身体機能の変化 11. 筋の触察 ①(上肢の筋①) 12. " ②(" ②) 13. " ③(" ③) 14. " ④(" ④) 15. " ⑤(" ⑤) 16. " ⑥(下肢の筋①) 17. " ⑦(" ②) 18. " ⑧(" ③) 19. " ⑨(" ④) 20. " ⑩(" ⑤) 21. " ⑪(" ⑥) 22. " ⑫(" ⑦) 23. " ⑬(体幹の筋①) 24. " ⑭(" ②) 25. " ⑮(" ③) 26. " ⑯(" ④) 27. " ⑰(" ⑤) 28. " ⑱(" ⑥) 29. " ⑲(" ⑦) 30. " ⑳(" ⑧) 指定教科書 「骨格筋の形と触察法」(大峰閣) 「入門運動生理学」(杏林書院) 成績評価 後期レポート

分野	教育内容	授業科目	授業項目
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解	★スポーツ科学英語の基礎 [到達目標] 臨床において使用する解剖学用語や運動学用語及び主な筋肉について、英語表記ができることを学習の目標とする。	 1年 講義2単位(30時間 必修) 1. 人体各部位の一般的名称 Useful information 2. Typical bone term① 3. " ② 4. Anatomic terminology① 5. " ② 6. The planes of motion 7. Axes of rotation and associated movement 8. Fundamental movement① 9. " ② 10. Study Question 11. Types of muscular activation 12. Study Question 13. Shoulder, Elbow and Wrist muscles 14. Hip, Knee and muscles 15. Ankle muscles 指定教科書 スポーツ科学英語の基礎 Work book   成績評価 前期レポート

分野	教育内容	授業科目	授業項目
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解	医療統計学 [到達目標] 科学的根拠に基づく医療(EBM)が重視されるなかで、理学療法士が研究を行う際に必要とされる統計学を学ぶことにより、医療統計の基礎を理解することを目標とする。	⑤3年 講義2単位(30時間 必修) 1. 統計学的検定法の概要 2. 理学療法研究と統計学 3. 研究デザイン 4. データの型と記述統計 5. 文献の収集・読解、研究の進め方 6. 統計手法、データと記述統計 7. クロス集計とt検定① 8. " ② 9. 分散分析① 10. " ② 11. 相関と回帰① 12. " ② 13. ランダム化比較試験 14. 多変量解析(ロジスティック解析) 15. 統計実践演習(統計ソフトウェアの活用) 指定教科書 「標準理学療法学 理学療法研究法」 (医学書院) 成績評価 後期試験

分野	教育内容	授業科目	授 業 項 目
選択必修	卒業審査 [到達目標] 国家試験対策として、過去の国家試験出題問題を精査し、分野別に整理した本校編集の問題集の解説及び弱点科目の講義、各種模擬試験を実施し、繰り返しの学習を徹底して知識の定着を図る。また、学生の習熟度による個別的指導を行い、確実に国家試験に合格できる学力をつけることを目標とする。	⑤3年 講義3単位(90時間 必修)	1. 国家試験対策① 2. 国家試験対策② 3. 国家試験対策③ 4. 国家試験対策④ 5. 国家試験対策⑤ 6. 国家試験対策⑥ 7. 国家試験対策⑦ 8. 国家試験対策⑧ 9. 国家試験対策⑨ 10. 国家試験対策⑩ 模擬試験 11. 国家試験対策⑪ グループワーク 12. 国家試験対策⑫ グループワーク 13. 国家試験対策⑬ 14. 国家試験対策⑭ 15. 国家試験対策⑮ 16. 国家試験対策⑯ 17. 国家試験対策⑰ 18. 国家試験対策⑱ 19. 国家試験対策⑲ 20. 国家試験対策⑳ 模擬試験 21. 国家試験対策㉑ グループワーク 22. 国家試験対策㉒ グループワーク 23. 国家試験対策㉓ 24. 国家試験対策㉔ 25. 国家試験対策㉕ 26. 国家試験対策㉖ 27. 国家試験対策㉗ 28. 国家試験対策㉘ 29. 国家試験対策㉙ 30. 国家試験対策㉚ 模擬試験 31. 国家試験対策㉛ グループワーク 32. 国家試験対策㉜ グループワーク 33. 国家試験対策㉝ 34. 国家試験対策㉞ 35. 国家試験対策㉟ 36. 国家試験対策㊱ 37. 国家試験対策㊲ 38. 国家試験対策㊳ 39. 国家試験対策㊴ 40. 国家試験対策㊵ 模擬試験 41. 国家試験対策㊶ グループワーク 42. 国家試験対策㊷ グループワーク 43. 国家試験対策㊸ 44. 国家試験対策㊹ 45. 国家試験対策㊺ 模擬試験 指定教科書 国家試験問題資料 医歯薬出版模擬試験 校内模擬試験 成績評価 後期試験(卒業試験)